

インド経済成長と日本

日本貿易振興機構アジア経済研究所

内川 秀二

インド経済はなぜ注目されるか

- 経済改革：**グローバルイゼーション**への適応
大幅な規制緩和 → 投資の促進
- IT産業の急成長
ITおよびIT関連産業によるサービス輸出の急増
- エネルギー資源を国際的に確保
13カ国で原油・天然ガス資産を確保

インド経済の実績

産業別 GDP 成長率

(%)

年度	農業	鉱業	製造業	電気・ガス・水道	建設
1981～1990	3.0	7.2	7.2	8.9	4.3
1991～2003	2.5	4.4*	6.5	5.3*	5.7

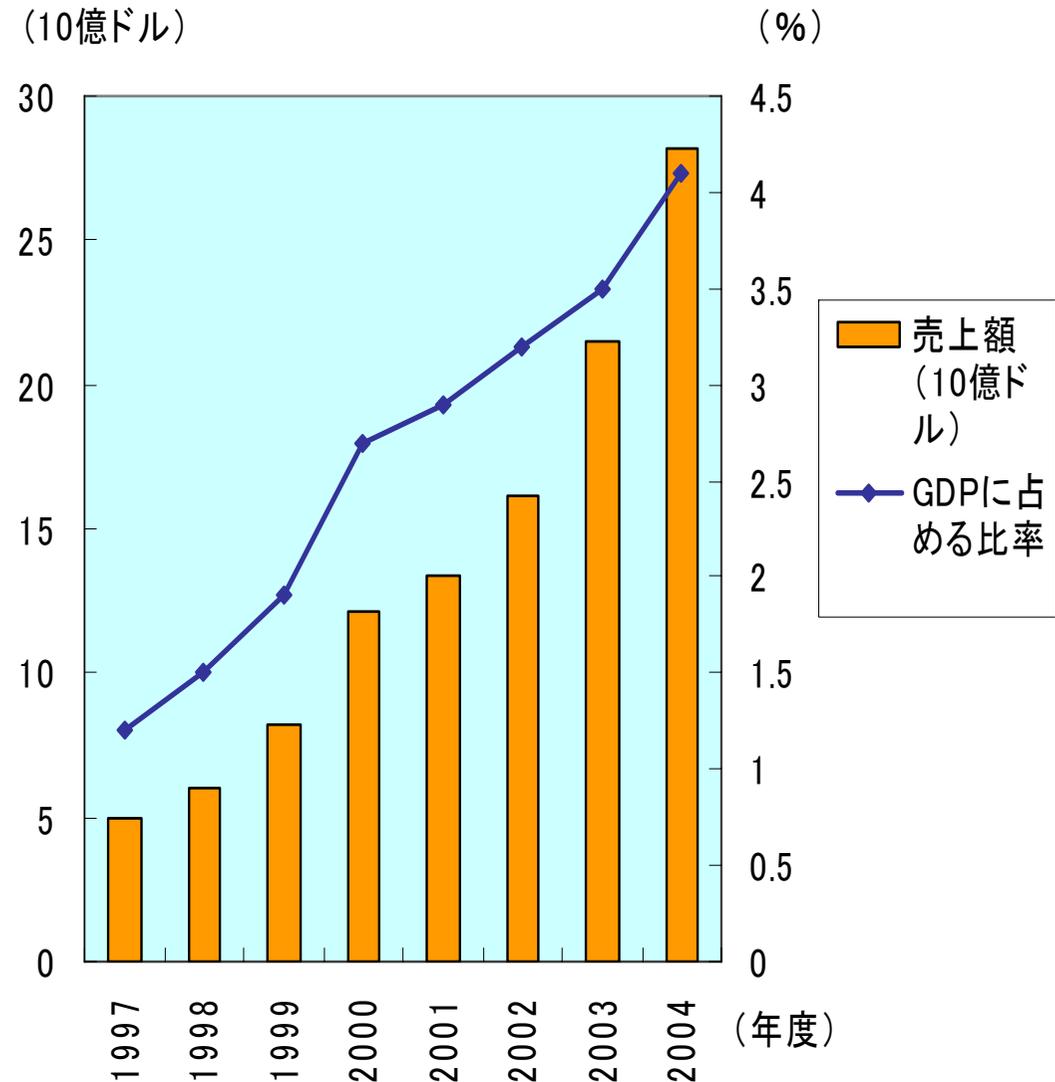
	商業・観光	運輸・通信	金融・不動産	個人・社会サービス	GDP
1981～1990	5.8	5.7	9.6	6.4	5.4
1991～2003	7.9*	9.3*	7.5*	7.1	5.9

(注) *は加速または減速が統計的観点から証明されたことを示す

- 安定したGDP成長率を維持
- 製造業の成長率は1990年代以降に減速
- サービス産業の急成長

インドIT産業の発展

- ITおよびIT関連産業の売上額は急上昇している
- 2004年度においてもGDPに占める比率は4.1%に過ぎない



サービス業台頭の理由

- 輸出入の増加とともに国内の物流が増大
- 都市化によるサービス業への需要の増大
- 生活水準の上昇→教育費、保健・医療費の増大
- サービス業に対する規制緩和

サービス産業も国内需要の拡大とともに発展してきた

インド政府が重視する安全保障

食糧安全保障

貧困層も含む国民全体に食糧を適切な価格で供給する

エネルギー安全保障

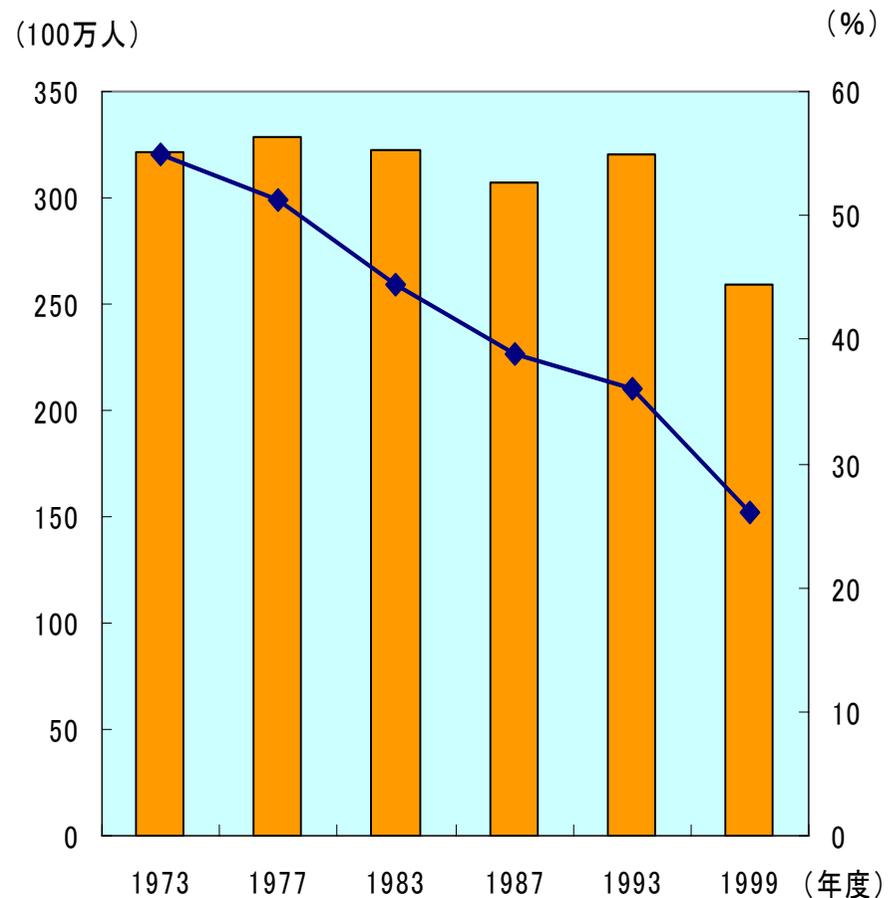
適切な価格で様々なニーズを満たせるよう、安全で便利なエネルギーがすべての国民に対して供給する

インドの貧困状況

- 人口に占める貧困層の比率は低下
- 貧困層の絶対数には大きな変化なし
- 現在でも2億5千万人は貧困層

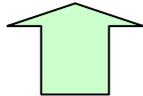
貧困層とは生活していくのに必要なカロリーを摂取できない人々のことを指す

農村開発の重要性

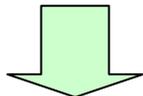


インドの石油貿易

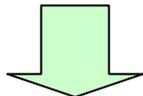
原油の輸入増大



石油需要の増大



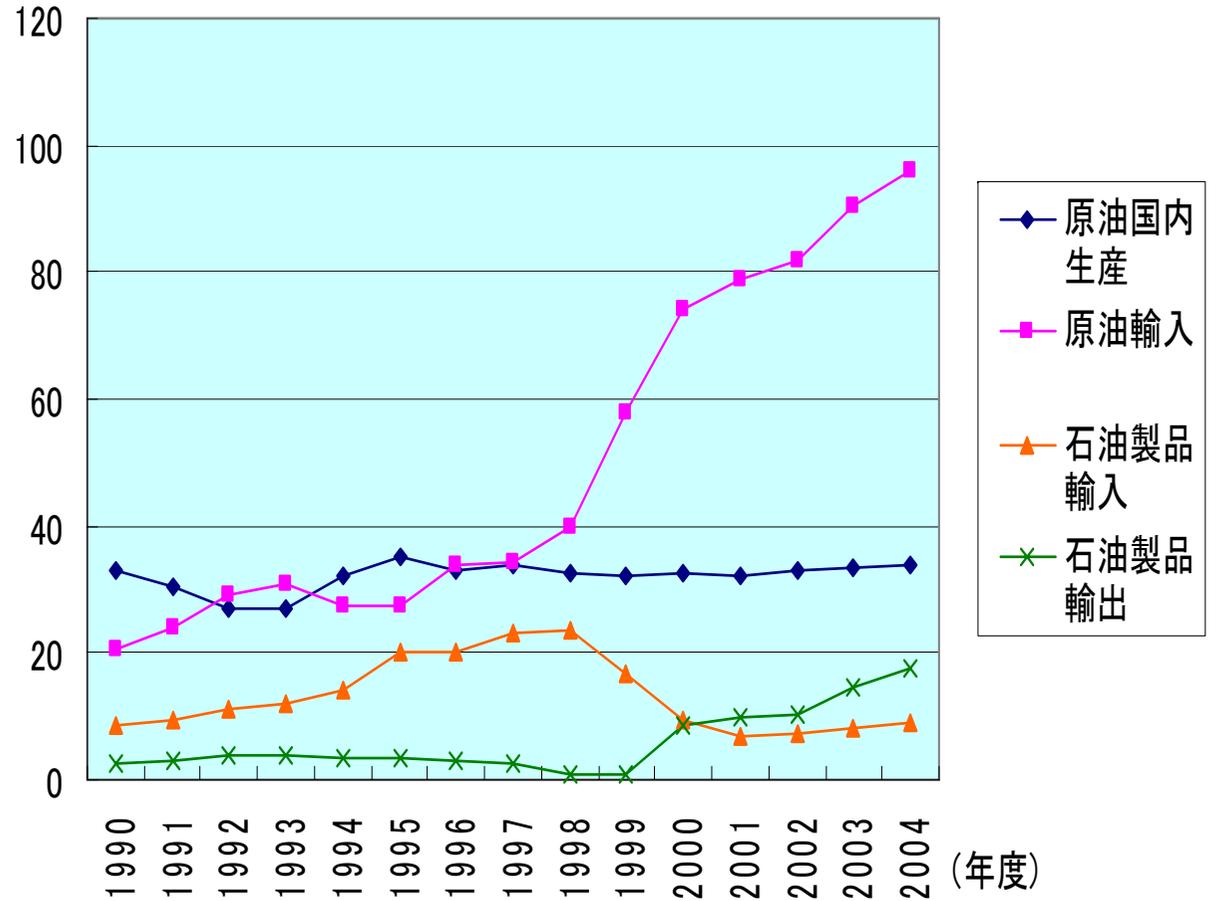
精油所の増設



石油製品の輸出

経済成長の影響

(100万トン)



インドにおけるエネルギー需要

- ・ 2003年
国民1人当たりエネルギー消費量(石油換算キロ/人)
インド 520キロ、中国 1090キロ、世界平均 1688キロ
- ・ 石油と天然ガスの確保がキー・ポイント
- ・ 石炭は自給可能

石炭・石油 → 天然ガス

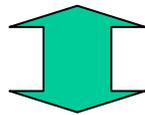
商業用エネルギーの構成比 (％)

年度	石炭	石油	天然ガス	水力	原子力
2003	51.07	36.39	8.87	2.14	1.53
2031	44.76	23.86	22.71	2.36	6.31

インド経済の可能性

- インド経済は安定して成長している

可能性は大きい

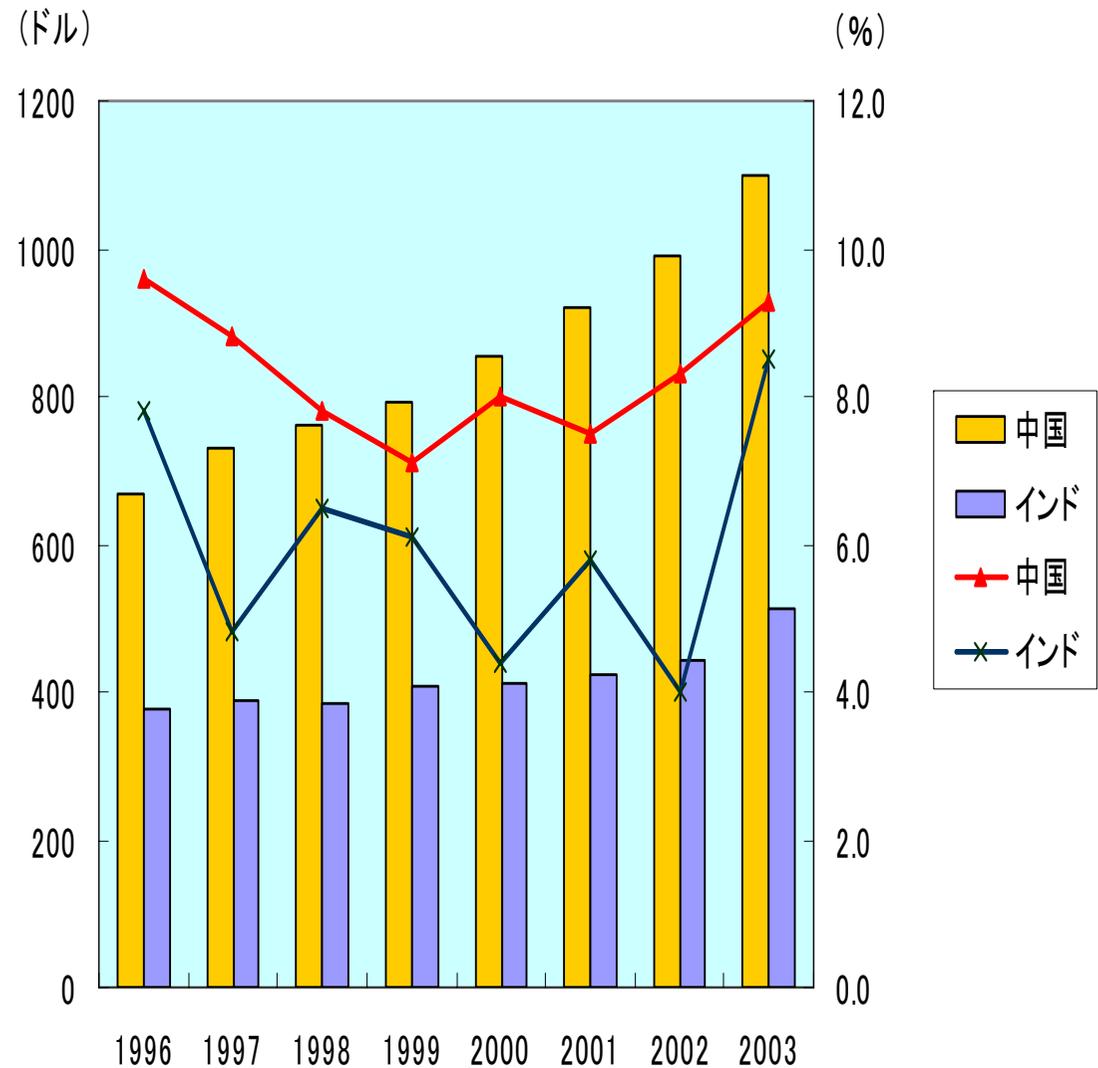


- 1人当たりGDPは中国の半分

中国 1099ドル

インド 511ドル

中国との差は大きい



日印経済関係

- 貿易 2004年度の日本におけるインドのシェア
輸入 0.5% 輸出 0.6%
2004年度のインドにおける日本のシェア
輸入 3.0% 輸出 2.4%
- 直接投資 2004年度
モーリシャス、アメリカなどに次ぐ5位
- 経済援助 日本にとって最大の援助供与国

援助額は大きい、存在感がない

東アジアとインドの経済関係の深化

1996 年度

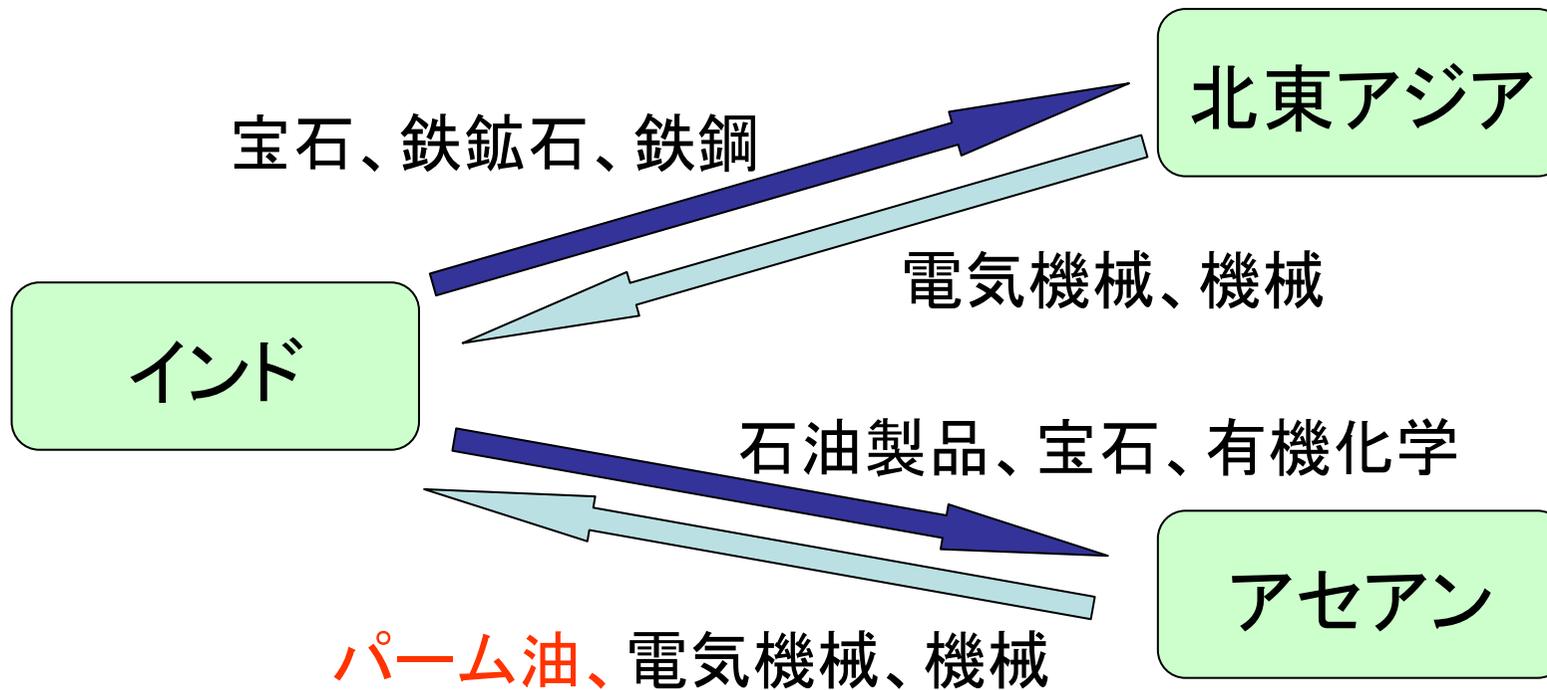
	アセアン	北東アジア	合計
インドからの輸出	8.7	16.3	25.0
インドの輸入	7.5	11.8	19.3

2004 年度

輸出入ともにアジアの比率が上昇

	アセアン	北東アジア	合計
インドからの輸出	10.1	15.8	25.9
インドの輸入	8.1	14.8	22.9

インドの貿易



- インドは日本および韓国企業の本社および東南アジア工場から自動車部品・電化製品の部品を輸入
- パーム油は貿易摩擦を引き起こしている

いかに日本はインドと提携するか

- 企業レベル

インドを国際的ロジスティク戦略の中で捉える。
何を東南アジアで生産し、何をインドで生産するか

- 国レベル(ODA)

技術移転を促進するプロジェクト
農村開発のためのインフラ整備

インドの歳入に占める外国援助の比率は2.2%に過ぎない